平成 24 年度「みえの現場・すごいやんかトーク」（紀北町）の概要

１月２６日（土）に紀北町の島勝浦集会所で「みえの現場・すごいやんかトーク」を開催しました。

当日は、「楽しもう会」及び島勝区の皆さん１０名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。

紀北町独自の健康体操「活活（かつかつ）体操」に
知事、尾上町長も参加しました

【参加者からの発言】

当日は、参加者の皆さんから、以下のようなご意見をいただきました。

- 島勝区は、昔から漁業を生業とした町。熊野灘のぶりの三大漁場の一つで昭和 30 年代は人口が 1000 人を超えていたが、昭和 40 年代以降人口が流出し、現在は人口 500 人、高齢化率 62%。高齢化が進んでいくが元気で頑張っていきたい。
- 島勝のお年寄りに元気で長生きして欲しいと活動を開始して 1 年 8 カ月。みんなで集まって話をすることで元気になるだろうと考えたのが発足のきっかけ。
- 「楽しもう会」は、現在、60 代から 90 代までの 46 名が会員。月２回の活動では、紀北町独自の健康体操の活活体操、ラジオ体操のほか、遠足など交流事業を実施し、「笑顔で楽しかった」を目標に活動している。
- 仲間作りをすることで災害時に声かけあって助け合いができる。
- 「楽しもう会」に参加して笑いがあり、また人に感謝する気持ちを覚えた。
- 社会に貢献したいという思いで「楽しもう会」に参加している。
- 島勝は、美味しい魚を食べているからか、年齢の割にみんなが元気であり、また都会と違って地域とのつながりが強い。
- 花見、紅葉を見に行くなど「楽しもう会」で出かけることが楽しい。また「楽しもう会」ができてから、集まる機会が増えた。

○ 防災面では、施設も大事であるが、意識が大事である。「楽しもう会」で交流することで日常の挨拶、会話につながり、地域防災の「自助、共助、公助」の意識が高まったのは、良かった。
○ 明日、「楽しもう会」の体操があると思うと食欲が出るなど気持ちに張りが出てきた。
○ 腰の手術をして 1 年後の医師の検診でびっくりされるほど回復していた。これも「楽しもう会」での体操や毎日の散歩の成果だ。
○ 20 代は、愛知県でサラリーマンをしていたが、現在は故郷に帰って漁師をしている。いざとなったときの島勝の団結力はすごいと思う。
○ 今も残る「大敷魚見小屋」からは、太平洋が一望できる。天気がいいと志摩半島まで見える見晴らしの良いこの場所に東屋や、子どもやお年寄りなど家族で安全に利用できる遊歩道を整備して欲しい。夏のシーズンには賑わう和具の浜海水浴場と併せて観光面で地域の活性化につながる。ソフト面では、地元が頑張るのでハード面での整備をお願いしたい。
○ 島勝は、漁業の町であり、朝早くから漁に出ても漁師の収入になるのは 2 割から 3 割しかない。第一次生産者にもっと配分されるようにして欲しい。
○ 高齢者が散歩する小中学校の跡地などに高齢者向けの足腰を鍛える簡易な器具を設置して欲しい。
○ 「楽しもう会」は、いわば寺子屋。情報収集はテレビで出来るが、正確に理解できない状況もあり、寺子屋を充実させるため、県民センター単位で講師を派遣してもらえる制度を作り、講師を派遣して欲しい。
○ 若い子ども達のスポーツの能力を地元で伸ばせるよう東紀州の高校にスポーツの優秀な指導者を配置して欲しい。
○ 海の磯焼けが進んでおり、ガンガゼの駆除やゴミの清掃の費用を支援して欲しい。
○ 三重県南部の魚を売り込んで欲しい、特に島勝のブリなどを PR して欲しい。

【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

○漁業の対応やスポーツ指導の教員人事など時間がかかる問題の一方で、ブリの PR など明日からでも出来ることもある。一つでも実現できるよう頑張りたい。
○すごいやんかトークでは、いつもは知事から元気をもらったと参加者の方から言われることが多いが、今日は皆さんから元気をもらった。

会場いっぱい詰め掛けていただいた「楽しもう会」の会員ほか傍聴のみなさん

【楽しもう会とは】

平成２３年６月に設立された「楽しもう会」は、高齢化が進む紀北町海山区島勝浦でお年寄りに笑顔で元気に過ごしてもらおうと活動されています。

月２回の活動日には、参加者全員でラジオ体操と町独自の健康体操「きほく活活（かつかつ）体操」、ストレッチ運動を行っています。

現在、会員数は４６名で、毎回の活動には、３０名以上が集まるなど地元のお年寄りの貴重な交流の場にもなっています。